

成果の説明書

(氏名)土谷岳史	(学部)経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>2017年度は前年度末に開始された21世紀政策研究所の英国のEU離脱とEUの将来に関する研究を進めることを行った。とくに筆者は英国のEU離脱に置ける移民難民問題の影響についての研究を行った。</p> <p>国民投票の期間中から報じられていたように、そして2016年の言葉としてオックスフォード大学出版局がpost-truthを選んだように、残留派、離脱派双方から不正確または間違った情報が次々と流された。ひとびとはそれらの情報に懐疑的な態度を取りつつも事実かどうか自体が問題とならない状況が生まれてしまった。とくに大きな争点となった問題のひとつが移民問題である。日本でも外国人嫌いやレイシズムがメディアを通じて煽られるような現実があるが、英国でも移民を危険視する報道が右派メディアから継続して流され、その結果構築された移民に対する否定的な状況認識が投票結果に強い影響を与えたと考えられる。</p> <p>本研究は2018年度前半に中間報告としてまとめられる予定である。また最終報告に向けて2018年度も継続して研究を行っていく。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>ゼミではレポートを作成させ、ブラッシュアップしていくという指導を行った。とくに2017年度は経済学会の懸賞論文への投稿を目標とした。その結果、2名のゼミ生が受賞することができた。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>上述の英国のEU離脱の研究を行っていく。よい報告書をまとめたい。また別のテーマで日本国際政治学会の研究大会で報告する予定である。</p>	